

やさき「山の学校」で福祉教室

山崎支部が協力・支援

社協では、市内全ての小・中・高等学校を「福祉教育推進指定校」として、福祉学習分野への支援を行っています。

四月十六日、県立山の学校（山崎町五十波）で福祉体験学習を実施しました。

今回は、全ての人がともに暮らす「地域」について考えながら、障がいのある状態を擬似体験し、その身体状況や気持ちの一端を理解することを目的に取り組みました。

初めに、視覚や色覚障がいの理解を深めた後、廊下に並べた



点字ブロックをアイマスクで歩行

点字マットの上でアイマスク体験を実施。白杖を使い、手先と足裏で感じ取る情報を頼りに歩行しながら、ガイドヘルプの大切さも学びました。

車イス体験では、基本的な操作方法や介助方法、声かけなどコミュニケーションの重要性も確認しました。

福祉体験学習は「学び・気づき」の振り返りが大切です。

障がいの有無に関わらず、だれもがこの社会とともに生きています。生活の場である「地域」の中で、喜びや生きがいを実感できる福祉のまちづくりが必要です。（山崎支部 春名豊滋）



相手を思いやりながら介助

いちのみや

「そよかぜ」が笑顔を運ぶ活動に

— 介護者の会「そよかぜ」 —

一宮支部では、毎月第三木曜日、一宮保健福祉センターにて、「在宅介護者のつどい」を開催しています。

会員は、介護をされている方や、これから介護に携わる方、介護経験のある方、介護に関心のある方など。会員の声を第一に、本音で話せ、

思いっきり笑える場として活動しています。

今回は、誰もが親しみやすい「会」の名前について、アイデアを出し合いました。結果、「みんなでリフレッシュして、さわやかな気持ちで。」「嫌なことは風に流して、良い風にのっていいこう。」などの思いを込めて、『そよかぜ』に決まりました。



会員一人ひとりが、「そよかぜ」を大切な時間として位置づけられています



お花見会、介護保険勉強会、料理教室、日帰り旅行、市内交流会、年賀状づくり、寄せ植え、新年会…18年度の活動です（写真は料理教室）

誰もがいつかは直面する「介護」。介護に関わっているみなさんが集い、たすけあいや学び合いを深めていくために、社協では「そよかぜ」を応援していきます。

（一宮支部 日下奈津美）